

長野市公共交通活性化・再生協議会 自転車活用推進部会 議事概要

- 1 開催日時 令和6年5月23日（木） 午前10時00分～正午
- 2 開催場所 長野市役所第一庁舎5階 会議室151
- 3 出席者 出席委員6人（欠席委員1人）、事務局職員7人、受託業者1人
- 4 次第
 - 1 開 会
 - 2 あいさつ
 - 3 協議事項
 - (1) 長野市自転車活用推進計画 令和6年度事業計画について
 - (2) 第2次長野市自転車活用推進計画について
 - (3) 自転車ネットワーク計画について
 - 4 その他

【3 協議事項】

(1) 長野市自転車活用推進計画 令和6年度事業計画について

事務局から「資料1」に基づき説明を行った。

【意見等】

◆A委員

- ・松本市は市内にシェアサイクルポートが40～50か所あり、ほぼどこでも行けるが長野市は市役所、善光寺にもない。レンタルがいいのは、ポートで一度返却ができる場所。善光寺にポートがないと駅から借りっぱなしとなり、その間も課金されるため、高く使えない。
- ・松本はかなり使われるようになってきているようだ。観光客にはかなり親和性が高い。始まったばかりで採算は取れないと思うが、皆さんで使うようにアピールするとともに、ポートの数を増やすように主催者側に伝えていただきたい。

事務局

- ・松本市は日常利用を想定し、自転車もママチャリタイプ。長野市は観光客向けであり、観光客が乗って楽しめるようにE-Bikeも少し高いものを用意し、料金も観光客向けでやや高めに設定している。善光寺は要望が多いことから、今年度、善光寺周辺にポートを設置する検討を進めている。日常使いではないため、市役所などにポートを増やすことは今後の展開次第かと考える。

- ・松本市の場合、バスは公設民営で費用は松本市が全額負担しており、利用の増減は関係なく自転車、公共交通のどちらを選択しても良い体制となっている。長野市の場合、バスは民営であるため、自転車利用が増えすぎてバス利用が減ってしまうと、バス利用自体が維持できなくなるという点もあり、どこまで推進して良いのかそのバランスが難しい。レンタサイクルの利用は、あくまでも観光目的の利用を推進している。そういった事情もご理解いただきたい。

◆A委員

- ・自転車はバスと競合するものではなくて、マイカーと競合させるというのが肝要。そのためにどのような手を打つべきか、どこにポートが必要なのか、という話になっていくかと思う。

◆B委員

- ・基本方針3―施策6「電動キックボードの安全利用に関する広報」について、具体的にはどのような広報や普及啓発活動の実施を予定しているか。

事務局

- ・警察にも新しい課ができて、啓発を進めていくと聞いているので、情報提供もいただきながら、ラジオ放送等で呼びかけることを考えている。その上で、ホームページへの掲載が有効であれば、良い内容を掲載したい。

◆B委員

- ・「電動キックボード」とは、特定小型のことで良いか。「電動キックボード」という名称とすると、特定小型に加えて、通常の前付になるものも含まれるため、誤解を招きかねない。特定小型とそれ以外の規格のものは明確に区別する必要がある。長野市内の店舗で電動キックボードを扱っており、数台売れているということで、今後増えていくのではないか。

◆A委員

- ・電動キックボードは区分が分かりにくい。外から見て分かるのか。

◆B委員

- ・とても分かりにくい。小さいナンバープレートがついているのが特定小型。国交省の性能確認済シールが貼られていれば特定小型である。ただ、現在は業者がたくさん持ち込んでいるために審査が順番待ちになっており、認可が下りるまでに時間がかかるという。中には認可が下りていないものの販売しているものもある。

- ・ネットで販売されているものは0.6kWを超え、20km/h以上出してしまうものが多く、販売サイトでは非常に小さい字で公道では乗れないという表記があるが、分からずに購入してしまう人が相当数いるものとみられる。

◆A委員

- ・まだ大きな問題にはなっていないものの、一度問題になり始めたら事故が多発して、危ないということか。

◆B委員

- ・軽井沢町では1件の死亡事故が発生したことで、軽井沢町内では原則不可という通知が町長名で出てしまうほどの問題となっている。

◆A委員

- ・警察と連携しながら、適切な対処をお願いしたい。

(2) 第2次長野市自転車活用推進計画について

事務局から「資料2」及び「資料3」に基づき説明を行った。

◆C委員

- ・ヘルメットの着用率が上がってきていないというのを感じている。警察では着用促進を呼びかけているほか、右側通行などの悪質な運転に指導しているが、警察だけではなく、全体でタイアップして、着用率や運転・通行の方法について、もっと大きく取り上げていただければ。広報媒体はあると思うので、活用していけたらと思う。

事務局

- ・警察と連携して啓発活動を合同で行っているのですが、市で啓発活動を企画した時にはご協力いただきたい。また、警察で企画された時には、市へ声をかけていただければ、市からも人員の確保やチラシの準備などで協力したい。

◆A委員

- ・新聞では、自転車の違反に対して青切符を切るという報道がかなりされている。小・中学生や高齢者は安全教室が有効だと思うが、高・大学生はあまり効果がない。彼らはSNSの通信網があるので、青切符の適応は効果があるのではないかと。また、こういう事例があったということを、市で広報していただきたい。

◆D委員

- ・自転車利用の環境の整備という中で、次に買い替えるならば E-Bike を買いたいと考えるが、価格が高いために自転車駐車場に置いておくと盗まれるのではないかと不安になる。安心して置いておけるのであれば、普及が進むのではないか。

◆A委員

- ・ワイヤーキーを、駐輪場の付帯設備の動かないものに固定すると効果が大きい。市役所第二庁舎の前の駐輪場が車輪止めのあるタイプに変更された。車輪止めにワイヤーキーを通してロックをしてあれば、それを盗んでいく人はいないのではないか。

◆D委員

- ・レールがあるところにタイヤを入れて、そこに心棒を差し込むような機構が駐車場にあれば、高価な自転車に乗っている人も安心して停められるのではないか。

事務局

- ・長野駅の駐輪場は、今後ラックの入れ替えを予定している。
- ・長野駅駐輪場は日中管理人が詰めていながら、盗難がある。防犯カメラがついているにも関わらず、盗難を完全に防ぐことはできていない。
- ・長野駅は利用率が高いため、スペース確保のためラックを設置しているが、利用に余裕がある市営駐輪場では、ラックはかえって高齢者に使いづらいなど、すべての駐輪場にラックを入れるのは難しい。

◆E委員

- ・以前は古い自転車が盗まれると言われていたが、今は新しいものが盗まれる。トラックで乗り付けて、良い自転車だけを盗んでいくようなこともあると聞く。以前とは時代が違う。

事務局

- ・有料エリアの声あるが、そういったエリアを造ることで収容台数が減ると、一般の利用者の迷惑になる可能性もある。場所の余裕がない中で、バランスを考える必要がある。自転車愛好家は自転車を積極的に利用される方々なので、自転車利用の推進という点から考慮する必要がある。
- ・長野駅駐輪場の新しいラックは1台分の大きさが広がるため、収容台数が減ってしまう。現状でも夏休みなどは稼働率100%になるため、有料となるとスペースの確保が難しい。また、新たなモビリティ対策として、ラックに収まらない三輪自転車やキックボードを駐められる平置きスペースの確保も必要と考えている。

- ・気軽に使えるということを考えていくと、高価な自転車を利用されている方との温度差があるので、そのあたりとどのように周知していくかを検討する必要がある。

資料2の5以降、資料4、資料5の説明

◆A委員

- ・目標値についてご意見をいただきたい。目標値では、現行計画で設定した目標値からアンケートの結果に基づき下げているものもある。今回のアンケート結果から、自転車を持っていない、使っていない人が多いことが分かったので、目標値を変えていこうという趣旨かと思う。事故数に関しては、減ってきているのでこれを維持したいというもの。自転車が関係する事故で、重大な案件が増えているようなことは特にない、ということで良いか。

◆B委員

- ・ここに出ている数字は、ケガのある事故、すなわち人身事故の件数なので、潜在的な事故はもっとあると思う。長野中央署管内では、今年は42件で昨年同期よりも少ないが、危険な事故も潜在的にあると考えていただきたい。

◆A委員

- ・そのような状況で、今後電動キックボードが出てくる可能性を含めて、今の190件を維持で適当と考えてよいのか？

◆B委員

- ・事故件数の増減は読めないところがある。数値目標としては、現状維持または下回るということで良いと思う。

◆A委員

- ・目標値として、事故件数を「維持」と書くと違和感があるので、「下回る」と書けないか。

◆B委員

- ・基本的には、減らしていくという方向が理想かと思う。

◆A委員

- ・放置自転車について、撤去数が少なくなるというのは市役所の経費的に助かるのは良く分かる。これ以外の書きようはあるか。

事務局

- ・自転車を適正利用ということを意図している。その中には、駐輪場の整備も含む。

◆A委員

- ・満足と感じる人が15%はどう考えたらよいか。満足ではない人が85%いるというのは、何が原因なのか。使わないから満足ではない、ということか。もっと使ってくださいとアピールして実際使うようになると、むしろ不満が高まるかもしれない。次回もアンケートをするのであれば、次回もやり方は注意しなければならない。

事務局

- ・次回は今回と同じまちづくりアンケートになるので、今回と同じような傾向になるのではないか。

◆A委員

- ・キャッチフレーズについてご意見をいただきたい。

事務局

- ・目標像に含まれている内容をキャッチフレーズにも入れて、外に出していくという方向を考えている。現行計画では目標像が表に出にくいことから、そのイメージをキャッチフレーズに含めていきたい。

◆E委員

- ・「早爽と」に違和感がある。「さっそうと」と聞くと何もない所、例えば森林や山の中を走るイメージ。まちの中を、生活のために使うもので「さっそうと」というのに違和感を感じた。「さっそう」ではなくて、「まちにやさしく」というような文言が入っていると良い。

事務局

- ・現行計画を立てるときは、走る速さと爽快感をイメージしたもの。

◆E委員

- ・それは若者的なイメージかと思う。まちで買い物をしているような、生活感が感じられない。万人に通じるような、違う言葉がないか。

◆A委員

- ・重要な課題として、少子高齢化が進展して、高齢者の介護にかかる費用が大きくなり、生活にかかる費用を圧迫しつつある。歩くか自転車を使い、できるだけ車を降りてもらうというのが鍵になる。そのイメージを大事にするのであれば「さっそうと」ではない。

◆E委員

- ・まちの中をゆっくりと走るようなイメージの言葉を入れられると良い。

◆A委員

- ・高齢になってからではなく、40～50代が通勤のマイカー利用から自転車に切り替えてもらうには、颯爽と走るくらいの速度で走れないと、乗り換えは進まない。時速20～25kmで走れるまちづくりをお願いしている。そういう意味から「早爽と」というのは適している。ただ、高齢者が自転車は自分たちには関係ない乗りものだということになってしまうと良くないので、難しい。

事務局

- ・長野市の都市ブランドコンセプトの中に「わたしらしく」という文言がある。今回の計画の中でも、様々な利用者への対応が必要であることから、「わたしらしく乗る」というイメージや楽しみを加える方向性が必要と考えている。現行計画を立てた5年前よりも自転車の楽しみ方が多様化している中で、自分たちらしく乗る、というイメージはどうか。その人らしい乗り方、楽しみ方を示すことで、長野市の都市ブランドコンセプトとも合ってくる。

◆A委員

- ・ブランドコンセプトに合わせて「わたしらしく、自転車でながのを生きる」とすれば、若者も高齢者も両方含めるようなかたちにできる。ただそれだけだとよく分からないので、具体的な利用イメージを示して、安心して利用できることが分かるようにすれば良い。
- ・若者向けだけでもいけないし、高齢者向けだけでもいけない。両立を目指しつつ、結果として自然環境にやさしくなれば良い。

事務局

- ・キャッチフレーズと目標像を一緒にするという方針は良いか。

◆A委員

- ・良いと思う。キャッチフレーズ案は固まっていなくて良いので、部会の前にいただけると良い。

事務局

- ・こんなニュアンス、というものを事前にお送りしてご意見をいただき、ある程度形にしたものを次回の部会でキャッチフレーズ案として示させていただきたい。

(3) 自転車ネットワーク計画について

事務局から「資料6」に基づき説明を行った。

【意見等】

◆A委員

- ・実線の部分は計画に組み入れていくということで良いか。五輪大橋は歩道を走るのか、車道を走るのか。

事務局

- ・五輪大橋は自転車通行可の歩道になっているので、歩道を走ることになる。

◆A委員

- ・大豆島へ行く時は、歩道から焼却場の方へいったん降りるということか。

事務局

- ・車道を直進することができないので、そのようになるが接続性は考える。

◆A委員

- ・安全性を担保しつつ、整備を進めていただきたい。
- ・歩道の上を走らせるのはやむを得ないが、歩道と車道の接続部分がガタガタになるのをなんとかしていただきたい。特に下り坂は段差があると跳ねて危険。

【4 その他】

次回の部会は10月頃の開催予定。

午後12時00分終了